

「日々の理科」(第 4427 号) 2026, -9, 23

「秋の北極圏旅行記 (9)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



日本からのおみやげを披露しているところです。二人とも日本が好きなので、喜んでくれました。



街のお店を案内してもらいました。ここは世界中の「珍しい物産」を扱ったお店です。



もちろん、トナカイやヘラジカの肉も売っています。



日本産のお米もあったので買いました。「最高級」と書いてあったのですが、まずかったです。ははは。



村の中心にある「パン焼き小屋」です。村民は自由に使うことができるのだそうです。



古い学校の校舎を活用した「歴史博物館」です。この建物は、学校だけでなく、病院にも使われたことがあり、その様子が再現されています。私はずいぶん前に一度見せてもらいました。



次に行ったのは、トナカイの角を利用した工芸品の展示ショップです。イギリスから移住したというご夫妻が、作品について熱心に説明してくれました。



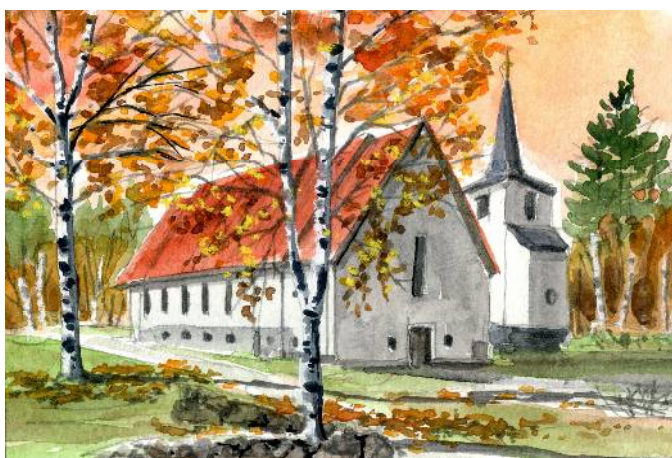
この日は日帰りで、できれば暗くなる前に運転を終えたかったのですが、非常に短い滞在で失礼しました。最後に集合写真。ちょっと涙が出ましたね・・・。



これは白樺の柄に、トナカイの角を削って作った槍をつけた、伝統的な狩の道具です。私も使い方を練習させてもらいました。



バストウトレスクは、日本からは行くこと自体の難易度が非常に高い街です。しかし、大切な友人が住んでいるからこそ、何度も訪れたいのです。次はいつかわかりませんが・・・。「ヘイ・ドー！」



この街で一番美しいのは、教会です。さきほどの工芸品作家の奥様が管理をしているのだそうです。夏には来たことがあるのですが、秋は初めてで、白樺の黄葉に囲まれて美しいたたずまいでした。



帰りは雨上がりの美しい道を、ひたすら北極圏に向かって戻りました。